

Shin Club 23

（株）通信 Vol.23
2002年2月
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4-7f
Phone: 03-3486-1570
Fax: 03-3486-1450

今月のトーク

「家族がともに暮らすこと
= 見えることの安心」

今月は家族と一緒に暮らしていくことについての工夫をリフォームで見せていただきました。

都心のビルのオーナーでいらっしゃるM様ご夫妻。ご主人は不動産業、奥様はブティックを営まれており、ご家族はほかにご主人の父上と小さなお子様が1人いらっしゃいます。ご自宅は都心の8階建てビルの6,7,8階の3フロア。築15年ほどでしたが、お母様がなくなり、奥様が家のことをなさっていく上で次第にストレスがたまることになりました。それは、かなりの面積にもかかわらず仕切りが多く、それぞれの部屋への採光が不十分だったこと。そして収納が少ないため、なかなかものを片付けられないということでした。家の中が3フロアにもわたっているために、家族の所在がわからないのも主婦にとっては結構ストレスです。加えて仕事が終わってから、家事をしている間は小さなお子様は目の届くところにいてほしいのですが、じっとしているというのも無理な話。そこで夫妻は、リフォームを決意され、雑誌でその作品を見て「この人なら自分たちの気持ちを理解してくれる」と確信できた設計家の桑原聡氏の元を訪れたのでした。

桑原氏は「家族がともに暮らす家」「一つ屋根に住む」ということをテーマに数々の住宅を設計されています。ご自身も職住接近、職住一体、共働きを実践してきたデザイナーです。特に、自宅で作業ができて、それほどワークスペースも必要としない仕事のご主人の気持ちはよく理解できたそうです。同じ年頃のお子さんがいらしたことも気が合いそうだった理由の一つでした。

ご夫妻の要求は、「仕切りがない部屋」「収納を多くする」「ベランダを通しての対面するマンションからの視線をさえ



ぎる」というシンプルなことでした。

桑原氏は、図面を見て、もともと竣工の時に基本設計をした設計者が真ん中の7階の南側の開口部を全面窓にするなど、フロア全体をリビングにするイメージを持っていたことが、うかがえたと言います。「おそらく、打合せの段階で基本設計から間取りがどんどん変わっていたのだろう、それなら自分が本来の形に戻してやろう」と考えたそうです。こういう設計の出会いにも、リフォームの醍醐味があるようです。

そして「仕切りを取っただけ」とはおっしゃいましたが、この住宅の一番のテーマは、なんとといっても透明な「階段室」です。ガラスで囲まれた階段室は、フロアを中心に位置し、視覚的にどこにいてもフロア全体をすべて見渡せると同時に、階段を利用している家族の姿も周りから確認できます。居住部分の8階と6階がプライベートスペースで、真ん中の7階が共有スペースですから、すべての家族が今どこにいるかということ、奥様は家事をやっている最中でもわかるのです。気配を察することができるだけで主婦は安心です。

今回ご高齢の父上はご自分のプライベートスペースは改修されませんでした。思い出の部分を残しておきたい気持ちは十二分に理解できます。建物はそのときの状態によって成長する。それがリフォームだと桑原氏は話してくれました。

ちなみに、リビングにある格子引き戸の建具の中は仏壇のコーナー。桑原氏はよく仏壇をリビングに置くそうですが、それは亡くなってから家族といっしょにいたいという気持ち、いてほしいという気持ちを大切にしたいからです。ただし、このようなデザインのスペースにむき出しの仏壇があるのもそれはそれで強く感じられるものです。むしろ気配があるけれども主張はせず、来訪者にも違和感がないようなスペースにされました。

2歳になったばかりのお子様は、広くなったリビングを運動場のように駆け回り、お友達もたくさん訪れて楽しそうに遊んでいるそうです。奥様の代わりに桑原氏の設計が応えた、斬新なリフォームになりました。

「とにかく、目が届くのがいいですね」と、すっきりと片付いたリビングで奥様はにこやかに話してくださいました。



TOPICS

「新宿 M邸」改修工事 (12月27日お引渡し) 新宿区

1階から5階までテナント店舗・事務所、6階から8階までがオーナーの自邸である。このオーナーの自邸の改修工事。トークでも述べたように仕切りをはずしてフロア全体が見渡せるようになったため、リビング南側の全面ガラスの窓のおかげで、日当たり良好。冬でも暖かく日中は暖房不要である。夜はことさらずすべてを明るく照らし出すような照明を採用していないため、足元を照らしたり、天井から部分的にスポットをあてるなど、昼間とはまた別の趣になっている。ベランダの足元の間接照明がイペ材のウッドデッキを引き立てる。フローリングは、8階がぶな、7階がチークフローリングで、ユーティリティ部分、玄関ホールなどは大理石である。壁はアンティコスタック塗り、窓にはやさしい素材感のブラインドを採用している。キッチンも収納が増えてゆとりが生まれ、ダイニングはカッシーナの家具が入る予定。

改修設計: 桑原聡建築研究所



収納が増えゆとりが生まれたキッチン



照明が映える透明な階段室



階段をおりるとダイニング



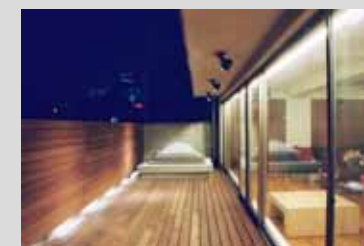
玄関は透明なガラス扉



リビングの左手はバスルーム



落ち着いた雰囲気のリビングの照明



足元の照明がやさしいテラス



ファミリールームと寝室はガラス扉



明るいろリビング / 仏壇が納まる建具



新宿副都心の景観はすばらしい

「恵比寿ビル」新築工事 (1月31日お引渡し) 渋谷区

恵比寿の企画会社のオフィスビルが出来上がりました。蜂の巣のようなスチールの枠が入ったガラス窓が美しいビルです。来月号で詳しくご紹介します。設計: 武松幸治 (E.P.A.環境変換装置建築研究所)



INFORMATION

「北山 恒」展 ギャラリー間 (TOTO乃木坂ビル3F): 2月23日土 ~ 4月27日土まで

弊社施工の「Omni Quarter」ほか様々な建築設計を行い、数多くのプロジェクトで受賞をされている、建築家北山恒氏の展覧会「On the Situation」が開催されます。写真集の発売や、講演会も予定されています。ぜひご覧ください。

講演会: 2002年4月20日(土) 13:30開場 14:00開演 会場: 建築会館ホール(港区芝5-26-20) JR三田駅、都営地下鉄三田線「三田駅」下車 定員350名、先着順受付 / 入場無料

